

# 岡崎市中央図書館大量アクセス事件

## <概要>

2010年5月25日 利用者の**中川圭右**が、岡崎市立中央図書館のホームページに集中的にアクセスして閲覧しにくくする

(目的：自作プログラムで新着図書データを自動的に収集するため)

⇒図書館のサーバが頻繁に停止

⇒システムを管理する**MDIS**に対策を求めるも、解決できず(Librahack事件と呼ばれる)

⇒警察に届け出る

⇒**偽計業務妨害の疑いで逮捕**⇒20日間**勾留**

⇒しかし閲覧障害の真の原因は**MDISの図書館システム**にあった

⇒6月14日に**起訴猶予処分**として釈放

## 図書館自由委員会の見解

- 警察に届け出ることが利用者の個人情報漏洩につながることもある
  - ⇒警察の指示を全て受け入れるのではなく、**図書館側がリスクと被害状況を分析し、調査は必要最小限であるべきだ**
- 被害届を出す前に利用者のデータを警察に自ら提出との報道について
  - ⇒提出すべきではなかった
- MDISのシステムが原因とわかり謝罪したものの、結果一時的に利用者の身体的自由を奪うことになったことについて
  - ⇒残念だが、和解までの努力は認める。

## 被害者側の見解

- 自分で罪を認めたつもりはない

(検察官側の意見：リクエストを大量に送ることで図書館のサーバに影響がでることを予想できた)

- 検察官に故意でないことを認めてもらうためにすべきだったことは？

⇒刑事事件における「故意性」「過失罰」について理解すべきだった

故意の否定もしっかり行うべきだった

- 警察への届け出が出されたままであることについて

⇒この事件が犯罪であったという誤解が広まったままになる

⇒公式に発表して欲しい

(中川氏の社会復帰を願う共同声明を出して和解している)

## 参考文献

- 岡崎市の図書館システムをめぐる事件について 日本図書館協会図書館の自由委員会

<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/jiyu/okazaki201103.html>

- Librahack マスコミ報道だけでは分からない岡崎図書館事件

<http://librahack.jp>